



広がりを感じさせる生活居室。素材のクオリティにもこだわったやさずらぎの空間



ラウンジで開催されたジャズコンサート



西洋式の多目的ホールではダンスパーティーも

高齢者ホーム最前線



キッチン付きのスペシャルダイニング



中庭に張り出したテラスレストラン。365日3食予約なしで利用可能



英国式の様式美を感じさせるラウンジ。訪問客との歓談や各種イベントにも用いられる

自由と安心感を備える シニアのための新空間

「憧れのホテルライフ」……という言葉をも、よく耳にする。しかし日々の生活には、いつもと変わらない日常性も必要はなはずだ。ホテルの快適さと日々の安心感、その両方を追求するのが、グランクレール馬事公苑だ。

東急不動産のシニアレジデンス「グランクレール」シリーズは、東急田園都市線の沿線を中心に計12施設、約1000戸を展開している。都心や横浜などの大都市圏にほど近い、都市型のホームだ。

不動産大手の東急不動産が展開していることから、入居者にとって安心感は大きいようだ。

その一つ、「グランクレール馬事公苑」を訪ねた。周囲は馬事公苑の豊かな緑に囲まれた、シックな建物だ。エントランスをくぐるとクラシックホテルのような空間が広がる。シニア住宅ならではの安心感も備える。併設クリニックは週6日診察可能で、年2回の健康診断をはじめ健康管理を行う。また介護の面では、訪問介護事務所を併設しており、夜間対応も可能だ。食生

活では365日予約なしで利用できるレストランを備え、専属シエフと管理栄養士がバランスのとれた食事を提供する。そのサービスの根底には、スタッフの「気遣い」が隠されている。

グランクレール馬事公苑



グランクレール馬事公苑の外観。都心とは思えないほどの豊かな緑に囲まれた、閑静な環境だ

入居者とスタッフの「適度な距離感」

支配人の金田剛秀さんはこう話す。「ホテルは非日常の空間です。その一瞬に、感動



医療・介護のサポートも充実。ホーム内のクリニック（右上）と、疾病時に療養できる一時静養室（左下）



声をかけ、交流の場を作っているのだ。

様々な工夫を重ね、入居者にストレスを感じさせない程度にスタッフから働き掛けを行う。繊細な人々との「適度な距離感」にこそ、こだわりたいと金田さんは話す。

「我々はどうやっても、皆様のご家族にはなれません。しかし、業務の中に気遣いや優しさの要素をもちたらすことはできる。それができるからこそ、真のプロだと思うのです」

を感じていただくための工夫が求められます。しかし老人ホームは、日常生活の場です。日々の生活を末永く快適に過ごしていただくための『気遣い』こそが、スタッフに求められているのです」

そこでまず金田さんが徹底したのが、いつでも声が掛けられるよう、入居者の顔と名前と部屋番号をスタッフに記憶させるということだった。直属の運営スタッフだけでなく

く、医療、介護、フィットネス、清掃、管理など、様々なスタッフ全員がこれを実践し、コミュニケーションのきつかけとしている。

また、各スタッフはPHSのほかにトランシーバを常備。入口に訪問客が来た時、入居者から急ぎの要望があった時などに活用し、瞬時の情報共有も心掛けています。

生活に彩りを添える共用スペース。ジャグジー付きのプール（左上）、インストラクターの指導が受けられるフィットネスルーム（左下）、交流の場・ビリヤードルーム（右上）、大浴場（右下）

は「ゲストリレーション」という専属スタッフを置いているという。たとえば、ビリヤードに誘うなど、入居者の個性や趣向に合わせて